

参加者：黒木、松田、中川、石川、中山

議題 * 「平成」を振り返る～日本社会の光と影～

ゲスト 政治学者 石川公彌子

*その他

配布資料

先月の霜村さんより地域行政の展開 と地域行政の推進 をいただきました。

<平成>を振り返る～日本社会の光と影～> 石川公彌子

*元号の歴史

元号とは中国で生まれたものです。空間と時間を支配する存在。天子の定めた元号と歴法を用いることはその王朝に服従することを意味します。日本においては大化の改新時に元号「大化」が用いられて

248の元号が存在します。実際は60年ごとの歴が使われていて江戸時代以降に元号が庶民に浸透した。1868年に慶応4年を明治元年とし、天皇一代につき元号一つとした。元号が天皇の権威を示す記号として位置づけられた。1979年に元号法が成立し法的根拠をもって維持されてきた。

*平成の「平和」

「史記」の「地平天成（地平かに天成る）」に由来する。平成には日本が当事国となった戦争は起こっていません。戦争が無いことは「幸福」に直結するのでしょうか。

*平成の「戦争」

赤木智弘の論文「丸山真男」をひっぱたききたい—31歳フリーライター希望は戦争 2007年
自由に生きているはずの若者がなぜ戦争を望むのでしょうか。

丸山氏は

帝国大学法部卒のエリートが戦争中徴兵で二等兵、中学も満身に卒業していない上等兵からいじめられる。

現代社会では非正規雇用フリーターはその隷属的な地位から上昇することができないけれど

戦争が起きたら固定された社会的階級や地位が流動化し、自分が身分を上昇させられるかもしれない。

インターネットによる公務員パッシング、学歴や収入出身地などによって分断され、互いに批判しあう人々を包摂するはずの政治の側からも「味方」と「敵」を峻別するようになったのも平成の特徴であるかもしれません。戦争が無く平和なはずの平成の日本で、武器を用いず宣戦布告もない戦争が静かにしんこうしていったのです。

*二つの「平和」

平和学において戦争のない状態＝消極的平和、

構造的暴力や差別、貧困、抑圧、格差がない状態＝積極的平和

国連の世界幸福度ランキングで日本は2012年44位でした、2018年54位、2019年58位の理由は日本社会の寛容度が失われつつあることと無関係ではないと思われまます。

*平成社会の「閉塞感」

学歴、収入よりも自分の進路を自分で決める自己決定度が幸福感に大きく影響している（2018年毎日新聞）

との報告があるが、家族の収入や兄弟姉妹の数、要介護の祖父母の有無によって進路が決まる事もある。小泉内閣では竹中平蔵による構造改革では民営化などにより政府の公共サービスを削減し小さな政府をめざした。非正規雇用が増えた。2008年にリーマンショックがあり派遣切りに合った。NPOが年越し派遣村などボランティアが根付いた。非正規雇用では将来設計が立てられない。社会保険料、税金が上昇し手取りが伸びない。

*新時代の「幸福」のために

新しい時代は人々が幸福になる時代しなければならない。「政治」はそのような皆さんの希望を実健するための手段、道具にほかならないのですから。

<その他>

手取りの収入を増やす。人生コストを減らすなどの方法がある。

学生に活気がない。外国人労働者力は劣悪になる。

上級国民のレベルが落ち込んでいる。

未来の地球が心配。

ローマ法王が力をもって変えられるか

香港の様に一人一人の数で戦うのか

中高生が自分で校則を作るようになった。

行動しても支援する住民がいない。

政治も金で力を買って当選してはダメ。

地方の小さいコミュニティーのほうが活動しやすい。

自然エネルギーを経済と一緒に考える。

次回の定例会は来年度1月6日 月曜日 夕方6時より黒木事務所といたします。